

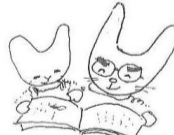


学校図書館

司書だより

No.20

2014年12月



図書館クイズ

世界中から愛されているムーミンの著者トーベ・ヤンソンは2014年で生誕100年です。では、ムーミンの住んでいるところは？

- ①ムーミン谷②ニョロニョロ山③ヤンソン村

わたしと読書

「最近何を読みましたか？」

中央図書館館長

高井 悟

私の日曜の朝の習慣は、新聞の読書欄に目を通すこと。

新刊、新書の紹介に始まって有名作家の愛読書、思い出しの書籍、料理本や絵本、専門書に至るまで左右両面にわたり本に関する情報に一通り目を通す。

この習慣は、図書館の仕事に携わるようになってからの事。

仕事柄、若い世代の本離れが気になってきたところ先日、外出先でこんな光景を見かけた。シヨップピングモールの一角にあるカフェでスマートフォン操作に余念のない客の中でひとり文庫本を手にしてくつろぐ青年を見かけた。若い人の読書ならもっぱら電子書籍と思いきや今どき文庫本とは正直驚いた。彼の指先が繰るのは画面ではなくページであることにかえって新鮮さを覚えた。少し前なら電車の中、駅や病院の待合で本を読む姿は日常的な光景だったが。

「読書の秋」ということもあってか先日、朝の情報番組で「最近何を読みましたか？」というテーマで街頭インタビューを試みていた。

今話題の本、人気作家の本、歴史小説、健康や食に関する本、スポーツや旅、趣味や語学の本、お金やビジネスに関する本、自己啓発

本など回答は多岐にわたっていた。

気になったのは若い世代の傾向のひとつとして人との繋がりがりやコミュニケーションの取り方について扱った本を求めていることだ。

今や片時も手放せないスマートフォンの普及は膨大な情報量と世界中の誰とでも通信できる距離感や周囲の人々との素早い交流をもたらす反面、何かしらの息苦しさを生んでいるように思える。いい加減さや曖昧さを許してくれない隙のない状況や関係からの解放を願う心の象徴として、こうした本を求め

る傾向が生まれているのか？と案じる。

人とのコミュニケーションに疲れたり、ストレスを抱かえた時こそ、ぜひ図書館に足を運んでいただきたい。気の向くまま書架を廻って本からの呼びかけに耳を傾け、気の向くまま一冊、二冊と手に取っていただきたい。

自分だけの世界に浸って本来の自分を大事にできるかけがえのない時間をもたらしてくれる本たちの待つ図書館に。

ひるがえって、かく言う私はどうか？年を重ねることに老眼の度合いの進んだことを言い訳にしつつ読書する時間がめっきり減ったこの頃ではある。

さて、最近私は何を読んだのだったかな？

高井さんは、美濃加茂市東・中央、両方の図書館で館長を六年間お務めされています。

子育てに本を

みんなで行こう！子育て学習会
～楽しく家読・本三昧～

子育ての中で出会った素敵な“本”を
テーマに開催します。

ビブリオバトル！！

・・・読み語りもお楽しみに☆



日時：平成27年1月24日(土)

13:30～15:30

(受付13:00～)

場所：みのかも文化の森

緑のホール

定員：100名程度

出張図書館：開館13:00～16:30

(貸出 15:30～)

※申し込み、参加料は不要です。

問い合わせ 美濃加茂市教育センター 谷口 0574(28)3255

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました



西中学校では、昨年より昼休みに図書館で有志の保護者による読み聞かせが月に一回行われていました。それを足がかりに、今年度より保護者と地域の方による読み聞かせボランティア「虹色」がメンバー二十二人で発足しました。(会の名前も生徒に募集したものです)

毎月第三水曜日の昼休み、図書室を読み聞かせ会の会場に模様変えし、図書委員の司会でお話し会が始まります。
夏はもちろんこわい話、次は昔話に落語、心にしみるお話…。たった十分間で、中学生にどんなものを読めばよいのやらと悩んで選んだ本を、みんなしつかり聞いてくれます。
毎回三十人から五十人の生徒が聞きに来てくれるのもうれしいことです。後片付けはみんなで行います。



読書は一人だけの大切な時間ですが、読み聞かせは温かなふれあいの時間です。
こんなふうに見聞かせを通して、心をつなぎ、皆で子どもたちを見守っていきたく願っています。

西中読み聞かせボランティア「虹色」

十一月の授業参観日には、保護者の皆さんにも図書館に関心を持ってもらおうと、保護者むけの貸出日が設けられたので、読み聞かせ会もそれに合わせて開きました。
読書は一人だけの大切な時間ですが、読み聞かせは温かなふれあいの時間です。
こんなふうに見聞かせを通して、心をつなぎ、皆で子どもたちを見守っていきたく願っています。

西中学校では、昨年より昼休みに図書館で有志の保護者による読み聞かせが月に一回行われていました。それを足がかりに、今年度より保護者と地域の方による読み聞かせボランティア「虹色」がメンバー二十二人で発足しました。(会の名前も生徒に募集したものです)



てくれて、気持ちの良いお話し会終了となります。
中学生がほんとうに集まってくれるのだから、か、退屈しないで聞いてくれるのだからと心配しながら始めた読み聞かせ会ですが、誠実に参加してくれる子どもたちの姿にこちらが励まされます。「ああ、おもしろかった」「とつぶやきながら図書室を出ていく声が届いたときは、万歳！といたい気分になりました。
十一月の授業参観日には、保護者の皆さんにも図書館に関心を持ってもらおうと、保護者むけの貸出日が設けられたので、読み聞かせ会もそれに合わせて開きました。

えほん

「うどんのうーやん」

岡田 よしたか作
ブロンズ新社980円十税



なんと主人公はどんぶりに入ったうどん。名前はうーやん。お店の人が忙しくて出前に行けないのでうーやんは自分で行くことに！話す言葉はコテコテの関西弁。困っている人(?)を必ず助ける人情味溢れる人柄。うーやんの魅力が全開です！

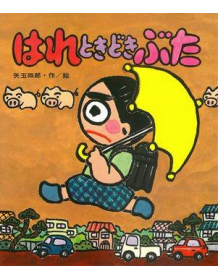
物語

「はれときどきぶた」

矢玉 四郎 作
岩崎書店1100円十税

ぼくの日記を勝手にお母さんが見ているらしい…お母さんを驚かせるために、でたらめなことを書いた則安くんは、次の日びつくり！なんと、書いたことが本当になったのです。読み出したらとまらない、シリーズのあと10巻も読みたくなることうけあいです。

図書館クイズの答え ①
ムーミン谷は、いつでもだれでも大歓迎。どんな人でも自分が自分らしくいられる場所が見つかる素晴らしいところですよ。



この本読んでみて!

小説

「ヨーンじいちゃん」

ペーター・ヘルトリング
偕成社1400円十税

ちよつと頑固で面白く人間味たっぷりのヨーンじいちゃんと同居することになりました。ヨーンじいちゃんは、孫・娘夫婦とお互いに慣れない暮らしをしながらも、徐々に人生の終盤を迎えます。老いてゆくことをユーモアにのせて描いた素晴らしい人生の、そしてあなたがかい家族の物語です。
ヨーンじいちゃん

大人むけ

「脳を育てる親の話し方」

加藤俊徳・吉野加容来 著
青春出版社1300円十税
外食した時のこと。いただきますを言いなさい、

食べないなら出て行きなさいと怒鳴る母親がいた。子どもでもプライドはあるし、家を出てくる前にすでに何かあったのかもしれない。傍から見ているこちらにも気分が悪くなる。あのだなり声はしつこく、叱るのではなく、ただの怒り。親も人間、イライラすることもある。だけれど、思わず言ってしまったアノことを、子どもの成長につながる言葉に変えてみませんか。子どもはあなたのことをよく見ていますよ。

